

## ガン 征圧は早期発見から

文明病といわれる「ガン」は、世界的に増える傾向にあります。昨年、日本でガンによって死亡した人は一〇万九、七〇八人、青森県で最も三、七四人が死亡しています。男子に多いガンは胃ガン、次に肺ガン、食道ガンを含み呼吸器ガンです。一方女子に多いのは子宮ガン、次に胃ガン、乳ガンの順です。このように、男子、女子を通じて多いのは胃ガンで日本の風土病であるといわれています。

一、原因がわからず、痛みもないのにやせてきて、顔色が悪くなり、貧血してくることはないか。(すべてのガン)

二、長らく胃腸の不調が悪くないか、食欲はおとろへないか。(胃ガン)

三、乳房の中に長く消えない

しこりはないか。(乳ガン)

四、どのきの又こむ時、つかえりような気がしないか。(食道ガン)

五、便通の調子がくるったり、血がまじってないか。(大腸ガン)

六、せきが長く続いたり、たんに血が混ったりしないか。(肺ガン)

七、声がかすれて、長く治らなれないことはいないか。(咽喉ガン)

八、口の中や皮かんに治りにくいしみやぶつぶつはないか。(舌ガン、皮膚ガン)

九、尿の出が悪かったり、血が混ったりしないか。(腎ぞうガン、膀胱ガン、前立腺ガン)

十、婦人の不定期出血がたないか。(子宮ガン)

少しでも疑いがあったら

健康診断を

受けましょう。

# 鳴海碑と願掛

厚生大臣の諮問機関である自然公園審議会がこの程下北国定公園を答申と  
し、国定公園指定は決まったと同然でありよろこんでよいと思う。

仏ヶ浦の玄关口である願掛岩や鳴海要吉碑のことぐらゐを今一度ふり返つて  
見たい。

六月二十九日の東奥日報に松林君のペンによれば、要吉碑におおいかぶさ  
るようにそゞり立つ流紋岩のふもとに女柱状節理がすばらしい重量感で迫る。こ  
掛岩から佐井林観光資源は南へ続くところある。まったく同感である。

黒石に刻まれてある口語歌人鳴海要吉の文学碑が一望の中に、北海道の  
山山、津軽半島遠く大島、小島、津軽海峡の清冽さ、奇勝仏ヶ浦までの海峯  
美まるで夢の世界のような女性的美観でもある。また雄大なる男性的な異観  
でもある。このところに鳴海文学碑が建立されて心温る想いである。要吉が  
願掛に立って上磯道から二足のワラジでなければ登れなげ七まがりの道を願  
をたれて登つてくる人を見てか

あそこにと道はあるのだ

頭たれ人ひとりゆく

猿が啼くはま

その頃は願掛岩には猿がきたものであり今とまたくる。今は景勝の地願掛岩  
は村立公園となりその自然美は地球にオロロン島以外には似た岩がないとき  
く、先生はこの地を愛して夏のある日

砂は焼けゆくては人の影となく

せめては慕う決菫子の花

と必歌つてける

ニヶ年の佐井でり先生は佐井の素朴な人情にふれ心から愛しぞして新し口語歌人はここから生れ又先生の憧憬であるエスペラントに精魂を傾けぞして實際的視野をひろめた先生ゆかりの地である。しかし文学にいそしむゆゑにわゆる昔の詩人歌人につきまとう経済的なもの樋口一葉にしろ石川啄木であれ鳴海要吉またしかり生活の重圧に苦んだ。その詩人啄木の釧路から船路東京へ発つたのは明治四十三年四月であり、鳴海先生が佐井を後にしたのも同四十三年四月であり、偶然の一致とは言いなげなにかを感させるものがある。

要吉碑の碑文は今は亡き秋田兩雀大先生の筆によるローマ字と日本字で兩雀筆を刻むのと因縁というものでしようか。こゝで碑にフいで少しくふれまゝに、願掛岩の要吉碑は碑石と碑文とまず申し分ないとして、先年私達グループ（月風会）が仏ヶ浦に歌人大町桂月の碑を建立に走りまわり大方の協賛を得、渡辺村長を先頭に立て当時としては立派な桂月真澄碑が立てられ、文学の地であることを見失わなげなのであつた。しかし年月が立つたがってあの碑も碑文も見直さなくてはならぬやうな気がする。菅江直澄、大町桂月の数ある歌の中から

神のわざ鬼の手造り仏宇多

人の世ならぬところなりけり

この歌を選んだのはよじでしようか。奥恐山と言われる霊場である仏ヶ浦を忘れはてた選文とも言ひよう。立待岬にある啄木の碑は墓石碑であるが、あの意味でよく、碑文もあの有名な

東海の小島の磯の白砂に

われ泣きぬれてかにとたわむる

彼と場前にマツチしたと言ひよう。

また函館の矢車の花、青森合浦公園の啄木の妹三浦光子の妹の舟酔の碑文とよくことにこの碑石は近くに産する自然石であり碑型と玉將碑に文をはめ込んだものだった。

木州さじはての地佐井村は文学に理解の地であり、この意味でも鳴海文学碑が建立されたのである。明治四十年要吉が佐井小学校の教員としてエスペラントを勉強しそして新しじ短歌に心ざしたため佐井の人のやさしじ心やりと大塚甲山等の有形無形り理解と協力とがあつて役をして新しじ革新歌人となさしめたりである。

険しく苦しかつた七十余年の星霜の心の中に佐井の美しじ自然の中で育つてじつた新しじ歌の数々を想ひなかべたこと、思う。

今はそのゆかりり地頼掛岩に先生の文学碑が建つてじる。やがてくる下北国定公園 仏ヶ浦の入口り頼掛岩で先生が観光客めたれにぞ新しじ歌で呼びかけることであらう。

## 八月四日稿

助役 宮川年晴

連日の過暑 皆様に

はいかびお過しでしよネか。

暑中お見舞申し上げます。

漁業も若目から天草、昆布と順調か  
ようです。農業も過暑が相当プラスに  
なつてじると思ひます。このよネに  
農、漁業と一応順調の如くでありま



月風会員 村議 川畑徳次郎

すが火の用心だけはくれぐれも願ひ  
ます。又、秋の台風シーズンを目の前  
に大佐井川の川床り高じことなど気  
がかりの点もありませんので出まるだ  
けのことは致したじと存じます。

佐井村の景勝地を含めた下北の国  
定公園候補地決定に伴つて観光客の  
数は増えてじるようですが、来季本  
決定ともなれば二、三割の客足の増  
となること云われておりますので、そ

うなりますとどうしてもガンカケや  
仏ヶ浦には冷たいものを提供する買  
店などは営利を超えても必要欠くべか  
らざるもののように思われて参りま  
す。炎天下仏ヶ浦など日蔭となく持  
参したビールもぬるくて飲めないと  
なれば地元としても一応は対策が  
必要ではないかと存じます。土産品な  
どと真剣に考えてほしいのではないか  
と思えます。

村で仏ヶ浦への歩道などに数十万  
円を投じたならば誰かが何等の方法  
で観光土産品などでの収入を考えた  
らるのでないかと思えます。

最後に又、火の用心をお願致します。

## 県民総ぐるみで酒のみ

### 運転を根絶しましょう

酒のみ運転による交通事故は、毎日  
のよつぱら、県内どこかで発生してお  
ります。昭和四十二年一月から六月  
まで酒のみ運転の關係した事故は、

発生件数一〇八件、死者一人、傷者  
二七〇人と、いふ状況で、文明の利器  
といわれる自動車が行走する凶器とな  
り、多数の尊い犠牲を出しております  
事故を起した運転者の飲酒状況調  
査（四十二年一月～六月末）によりますと

#### ・飲酒の機会

友人付合、商談、宴会、独酌等のう  
ち、友人付合が二一三件と最も多い。

#### ・動機

「運転者自ら酒をのんだ」が一一八  
件でほとんどであり、「他人にすすめ  
られて飲酒した」が二〇件である。

#### ・飲酒の場所

料理店、バー、一五六件、知人宅、四  
件、自宅、三一件、勤務先、一〇件で家庭  
で飲酒して車を運転した場合が多し。  
交通事故から尊い人命を守るため、  
酒をのんだら車を絶対運転しない。車  
を運転する人には酒をすすめないと  
いふお互に注意しましょう。

佐井敬言 警察官派出所提供

# ゴミ回収についてお願い

ゴミ回収員から次のことを村民に頼んでくれとゆうことですのでよろしくおねがいします。

1. ゴミはダンボールその他の容器に入れて出して下さい。

ヘバラのまゝのところがあつてそれは回収員と手をつけなかつたことです。

ひもでゆわいて結構です。

トラックのはじめをじれなげに地域の方はトラックがまわられる道路をいまで出しておいて下さい。

(助役)

## 感電事故防止について

東北電力では、八月中を、電気安全強調月向とさだめ、管内全地域における感電事故防止を広く呼びかけています。

近年、感電事故は次第にふえる傾向にあり、三十七年度から四十一年度

までの四ヶ月向で死亡者一人、負傷者出していません。

また過去三ヶ年向の月別比較では夏期の七、八月が特に多いのです。

1. 変電所や高圧線のある付近で子どもをあそばせなげ

2. 電柱にのぼったり、支線をつまみすったりしない。

3. 切れた電線にさわらない。

4. 屋根の上などで電線にふれなげよう注意する。

5. ぬれた手で電気機器にさわらなげ。

6. テレビのうしろにやたらにさわらない。

### 後記

立秋の声をきくと、さすが朝、夕は涼しくなりました。実の多い秋である。ようお祈り致します。

広報中三十三号お送り致します。お元気で。